

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第 22 回幹事会議事要旨

- 1 日時：令和 4 年 11 月 9 日（水） 10 時 55 分～11 時 55 分
- 2 場所：筑波大学東京キャンパス文京校舎 118 講義室、及びオンライン（Zoom）
- 3 出席者：林（会長）、甘利（副会長）、遠藤（副会長）、岡島、石濱
陪席者：高田（セコム）、斉藤（筑波大学）、高野（〃）、栗原（〃）、酒井（〃）、根本（〃）
(敬称略)
- 4 議事
 - I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案
 - (1) 総会・運営委員会委員の交代について
遠藤副会長から、資料 1-1 及び 1-2 に基づき、NTT 宇宙環境エネルギー研究所の委員交代について説明があり、原案のとおり承認された。
 - (2) 協働大学院教員候補者の推薦について
遠藤副会長から、資料 2 に基づき、日本自動車研究所の内田信行教授（協働大学院）の退任に伴い、同研究所から新たな協働大学院教員候補者として北島創氏の推薦があった旨の説明があり、審議の結果、コンソーシアムとして北島氏を大学に推薦することとなった。
 - (3) 第 3 回 Joint Seminar 減災・R2EC 共同シンポジウム開催について
遠藤副会長から、資料 3 に基づき、共同シンポジウム開催案について説明があり、プログラムに次の点を追加することで承認された。
 - 第 3 部・オープンディスカッション（30 分程度）を設け、参加者がコーヒー等を飲みながら自由に情報交換できる時間を設定する
 - (4) 令和 4 年度コンソーシアム年間活動計画について
遠藤副会長から、資料 4 に基づき、2023 年 1 月～3 月のコンソーシアム活動計画案について説明があり、次の会議日程を追加することで承認された。
 - 第 23 回幹事会：令和 5 年 2 月 14 日(火) 12:15～13:15 嘉ノ雅 茗溪館
 - 第 14 回運営委員会：令和 5 年 3 月 15 日(水)・16 日(木)・17 日(金)いずれかの午前中
オンライン（後日メール等により開催日時調整）
 - (5) JST「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」審査結果について
遠藤副会長から、資料 5 に基づき、育成型で採択されたこと、来年度中に本格型昇格への申請を予定していることについて説明があり、第 13 回運営委員会において本事業の概要説明、及び参画依頼を行うこととなった。
 - (6) R2EC ロゴマークの作成について
遠藤副会長から、資料 6 に基づき、R2EC ロゴマーク、及び当ロゴマークを使用した 150mm×70mm のマグネットを作成した旨の報告があった。また、後日事務局から各参画機関にマグネットを送付する

ので、各自の職場で積極的に掲示して欲しい旨の依頼があった。

(7) 参画機関と筑波大学の意見交換会の進捗について

遠藤副会長から資料 7 に基づき、既に 10 機関との意見交換会を実施し、残り 3 機関とも年度内に実施予定である旨の報告があった。林会長から、12 月の NCDR 来日時に NCDR との意見交換会を設定する旨の提案があり、調整を進めることとなった。

(8) 第 1 回ピッチ会開催について

遠藤副会長から、資料 8 に基づき、同日午後に開催する第 1 回ピッチ会の概要説明があった。

(9) その他

特になし。

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

(1) コンソーシアム紀要について

岡島委員から、従前から発行を検討していたコンソーシアム紀要をどのような形態にすべきかの意見照会があった。意見交換の結果、名称自体を「コンソーシアム活動報告」とし、ピッチ会、シンポジウム、各参画機関の年度ごとの活動概要等の活動報告を積み上げていくものとしてはどうかとの意見があった。幹事会での議論を踏まえ、第 13 回運営委員会でも意見照会することとなった。

(2) 参画機関向け学位プログラムリーフレットの更新について

岡島委員から、資料 9 に基づき、参画機関向け学位プログラムリーフレットを更新した旨の報告があった。また、後日事務局から各参画機関に R2EC マグネットとともにリーフレットを送付予定である旨の連絡があった。

(3) 令和 5 年度大学院入試（令和 4 年度実施入試）について

岡島委員から、資料 10 に基づき、8 月期入試の結果報告、及び 1～2 月期入試日程の告知があり、次のとおり説明があった。

- 8 月期入試（博士後期課程）では 8 名の合格者があり、うち 1 名は参画機関所属者、3 名は協働大学院教員を主指導に指名していること
- 博士後期課程の定員 13 名の充足のため 1～2 月期入試で 5 名以上を確保する必要がある、周囲で学位取得に関心のある方がいれば周知願いたいこと
- 次年度実施入試からは、7 月に受験し、同年 10 月に入学可能なシステムが導入される予定であり、社会人にとって受験・就学しやすくなること

関連して、甘利副会長から、社会人学生の授業料減免について検討願いたい旨の依頼があった

(4) その他

特になし。

以上